あゆち

さっぽろ

1986 11.30 発行

No 95

あごら札幌連絡先
細田英理子
☎ 644-2927

通信担当
盛生高子

今月のながみ

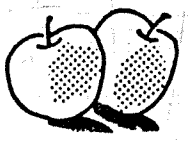
例会報告 …… 1
例会案内 …… 2
本音論争 …… 3
「今、母性を考える」集会参加記 …… 4
フリースペース …… 5
私が読んだ本 …… 6
集会参加記 …… 7
情報 …… 8

11月例会報告

性教育・生と性について

最初に10/9に行なわれた「北沢杏子さんを囲む会」の反省と会計報告がありました。「短期間の準備の割には人も集まり（40名弱）それほど赤字を出さずにすんだのはまず成功だったのではないか」「性差別をなくすという視点でやっていてとても共感できた」「北沢さんはとても魅力的で、話も適確でおもしろく、もっといろいろ聞きたかった」という声が多く、学校やPTA等、いろいろな場で"北沢さんを講師に呼ぼう"と働きかけたり、ビデオやスライド等の購入希望を出していこうということになりました。

そのあとは親として子供にどう教えるのかという話になっていき、女の子の時はそれほど悩まずに本を与えたり話をしたりできたが、男の子（中一）には戸惑うことが多いという話がでました。それに対



しては①夫とも連携をとりながら、基本的には女の子にも教えたのと同じようにする。②正しい知識を伝える ③男女の性に関して一般的にいわれていることには随分男本位な考え方がまかり通っていること ④性の問題は生き方に深く関わる問題であること。このようなことを折にふれ話していったらいいのではないかということになりました。（参考文献は次ページ参照）また、北沢さんも言っていたことですが、思春期になってからいろいろ教えるのではなく、小さいうちから教えていくことが大事だという確認もしました。

そのあとは性教育の現状の話になり、小中学校では初潮指導のみで、それも女子だけ行なうところがまだまだ多いことや、高校は何もしてないところがほとんどで、札幌のある高校では

性病とか簡単な知識を教えるだけでも校長から横ヤリが入ってできなかったという例などもだされました。結局、私達子供時代の教育とあまり変ってない現状のようです。

私は女子高に勤めているのですが、今年7月から北沢さんのスライド「男子と女子の性心理等」を使って性教育をはじめました。(セックスのことを割と身近な自分の問題として考えられる年令の方がいいと思い、高1の生徒を対象に行なった) 中絶や避妊について具体的に教え、自分の体のしくみをよく知り、大事にすること。セックスをする時点では双方に同等に責任はあるかもしれないが、結果(妊娠)は必ず女性の体にあらわれるものなのだということ。中絶で傷つくのも女性であること。だから女性主体に考えていくことが性の原則であると教えます。セックスがイヤならイヤ、したいならしたいできちんと避妊をしていこうと主張していくことが一番大事なことであると強調しています。男子生徒にも是非同じことを教えたいと痛感しました。

(細田英理子)

性のことで参考になる本

「さらば悲しみの性」河野美代子 高文研 1,100円

「からだノート」中山千夏 文春文庫 400円

「女のからだ」ボストン女の健康の様団 合同出版 1,200円

「こんにちは性教育」 1,200円
「ひらかれた 〃 ①」 〃
「 〃 ②」 〃
「 〃 ③」 〃
絵本「あかちゃんはこうしてできる」1,200円
〃「ボクのいもうとがうまれる」 〃
〃「こんにちは! しょしょうさん」880円
〃「パパとママがりこんしたとき」〃

北沢杏子 アーニ出版

※ まだ他にもたくさんあります。詳細は細田まで

※ アーニ出版の本はあごら札幌で扱っています。希望者は細田まで

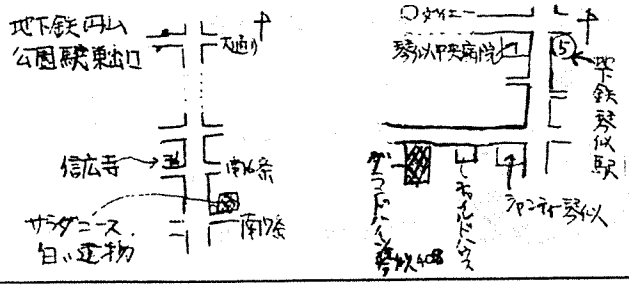
12月例会案内

恒例のように忘年会です。12月13日(土)

7:00〜9:00 PM …… サラダニース(南17西24) tel. 562・1777

9:30〜 …… 細田英理子宅(琴似1条6丁目。グランドハイツ琴似408号。Tel. 644・2927)

会費 …3500円、細田宅持ち込み歓迎



出欠の連絡は、12/8までタカハシ(563・6917)まで。

※ サラダニース: 中華バイキング(35品目、注文品はボーイさんがもってきてくれます)

本音論争 No.8

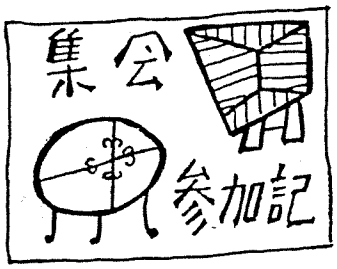
どうひとつの本音論争

通信ロク号から続いている本音論争は、主婦論争が中心になっているが、遺憾ながらも数名の退会者を出す結果となった原因（ホンネ）はもっと別のところにあると思われる。今年はあごらにとって大きな節目と言えるのかも知れないが、本音の部分を今一度洗い直して見ることで、改めてあごらのあなたを問いかけ、新たなる出発の一考としたい。　何時の頃からか、内在していた問題の一つに「運営」をめぐっての感覚の違いがある。それが感情論に発展して、運動に対する時間の掛け方＝あごらに対する思い入れのふみ絵となり、リブの理念の高低（貴）論の問題になり、更にリブであるための資格から主婦論争へと展開してきた。

退会した人達からの問題提起に、あごらの運営として今は拡大の時か保持の時かということがあった。それは拡大派か保持派かということでリブに対する姿勢を問う形で出された。しかしこの問題の立て方はよかしい。拡大と保持は本来運動の延長線上にあるもので二者択一できるたぐいのものではない。言うならば単に急進派か穏健派というだけのことである。私は穏健派として身の丈に合ったリブ運動を主張したのであるが、これには理由がある。　あごらは柵のない広場であり、誰が入って来ても誰が何を言っても自由であることが保障されている。これは運動体としては現在稀有のあなたである。セクトに支配されない、ボスのいない非常に民主的な組織なのだ。これは誇るに値する。現在、あごら内に於けるリブの意識のあり様も千差万別であるが、私はこれでいいと思っている。拡大を熱心にやるのも結構であるが、それは自分の足元をしっかり見つめての上でのことで、それにはあごらを民主的に運営していくという内部の充実が先決である。運営委員会が一部のまとまりやすい人達の独走に陥る事は極力避けなければならない。多少時間がかかっても、重要な討議は例会で、全体で考える方向を守り、編集に関しても誌面上の質の高さよりも、皆がどうかかわっているかを重要視したい。大変嬉しいことに、今日、通信の編集は沢山の人が集わり楽しい雰囲気の中で、お互いの問題を論じあったりする内に進められている。

このことはあごらの一つの進展と見てよいのではないだろうか。

あごらは一旦事が起こった際には、他団体と統一戦線を組むこともあるし、独自に運動として立ち上がることもあるだろうが、あくまでも"考える"場であり、それがあごらの独自性だと私は思うが、如何なものか。「私はこう思い、こうやって行く、あなたもよろしければ一緒に」というのが民主的な会のあり方ではないだろうか。《谷　百合子》



「今、母性を考える」

去る11月22日、中央区民センターに東京'82優生保護法改悪阻止連の石塚友子さんを迎えて「今、母性を考える」ということで集会が開かれた。当日二十数名の女性と、男性一名が熱心に石塚さんの話を聞いていた。

二十数名のメンバーのほとんどが仲間内という感じで、なかなか"一般人"には集まっては、もらえないものだと思った。

石塚さんの話は、現在の国会で母子保健法改悪の動きが活発であり、厚生省の中でも、いろいろな動きがあるということ、と、東京で開かれた「母性解読連続講座」の内容についての話であった。　また、今、なぜ母性がこれほど政府の中でクローズアップされているのかと、いうことを明治維新後の天皇制国家という歴史の流れの中で説明があった。これは、国家を治め、国民を戦争にかり立てる為に母性が利用されていたのである。

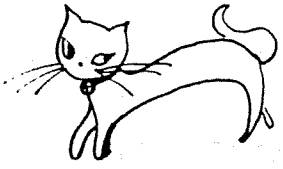
母性というものが、国家にとって、たよりになる武器だとは、今まで学習しなければ思いもしなかった。母性というものは、あまりにも静かに個人にも家庭にも世間にも当然のように居すわっているため、母性という言葉や、それ自身の存在そのものを疑うことなど思いもつかなかった。（あぶないところであった）

思えば、私自身も世間一般でいう、母性という枠の中で見てみると、子供の頃から、人形遊びも、ままごとも、さほど好きでもなく、赤ん坊を見ても5秒位いは、かわいいと思うが、6秒目には、特にかわいいとも思わず、子供は、うるさいので嫌いだといいきる私なら、母性のない欠陥女性と非難をあびるであろう。　世間では、母性という枠を決めて、その中に母性の条件を並べて、女なら、この中にあてはまる気持があって、あたりまえ、と決めつける。

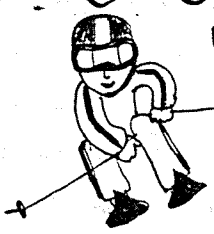
そんな枠で女の生き方、感じ方を縛られては、たまらない。
世間の中に当然のように居すわっている母性を問い直すことは、母性を戦略として利用しようとする国家との戦いになるだろうが、自由に、のびやかに、みんな一緒に生きていける場所を作るためには、必要なことでは、ないだろうか。

決して、今日を大戦前夜にしてはいけないと、改めて強く思わせた集会であった。

伊藤初江



あごら札幌の若い友人からの情報で道の公務員試験（何と年令制限内にひっかからない試験がまだあったのだ！）である実習助手の試験を受けた。一般常識筆記試験1時間。人間ソガイの疎外を阻害と書いてしまった。これは職業柄（Feの検出にPbが阻害する）のような気がした。好奇心いっぱいの面接。私はこれで怒り狂ってしまった。ひとつの部屋の両端で二組の面接が行われていた。私に対しては「もし、試験に受かっても任地が稚内とか根室とかだったらどうするのですか」「特種な事をできるひとしか「なかなか札幌に採用されませんよ、工業とか、農業とか……。アッ、工業出なんですね」……バ〜カ。「とにかく、始めから別居を強いるような人事もできないから、そういう人は採用できません。」ムムム……。隣は隣で（面接官の顔を見たワケではないが）ヤニ下がった声で「今から仕事につくより、早く結婚した方がいいんじゃないの？」「誰かいい人いないのかい？」というようなことばかり聞いていて、私は自分の事で腹を立て、隣の人の身になって重ねて腹を立てていた。別の面接官は「男と女と成績が同じなら男を採る」と公言していたという。男女雇用均等法ができても、女は未婚も既婚も採りたくないというのが本音である、ということがよくわかった。帰途、怒りのあまり、一駅早く地下鉄を下りてしまい、またまた腹をたててしまった。



スキーと温泉
一泊二日の旅

新年会は温泉につかりながらの一んびりと、ついでにスキーも・と欲ばりました。子連れO.K.
あごら札幌について、又、例会では話し尽せないこと、その他無限大…

日時　1月 6.7.8.9.10 のうちのいずれか一泊二日.
場所　朝里川温泉
費用　4200円〜8000円位. 旅費別.

参加希望の方は松平まで連絡下さい.〈Tel 782-3338〉
詳細は決定次第お知らせします.

若いいのちの像（すがた） 私のカウンセリング入門　児玉澄子 著

新しい家庭科、We という雑誌に3年間連載していたものが一冊の本となった。心理学を扱ったものは、苦手であったが、連載中から心引かれるものがあった。ちょっと長くなるが本文を引用してみる。

『昔、Aのような生徒を前にすると、私は、腹が立つか、おどおどするか、悲観するか、「もう どうにでもなれ」と突き放すかであった。処置なし、お手あげだった。無礼な態度が、まず許せなかったし、捨てぜりふな口調が気に入らなかったし、滅茶滅茶な行動を糾弾したろうし、挑むような表情に接するのも嫌悪したと思う。しかし今、自信は毫もないけれども落ち着いて、何を合うことができる。自分に対して失礼だ、自分を傷つけた、自分をないがしろにした、自分を甘くみているという「自分中心の感情にあまり支配されず、AにはAの、BにはBの、言うに言われぬ要因があって、そういう表現をとらざるを得ないのだと、一歩離れて受けとめることができるようになった。』

『問題をかかえた人（生徒）の在り方を、あるがままに受容する』

『他人の善いところを発見し、尊重し、受容するのは自然である。しかし相手の全ての面を一否定的な悪い、みにくい、どうちつかずの防衛的な、異常な一感情の表現をも、積極的に受容するなんて、何ということだろう……』

『受容は許容ではない』

読みながらズキズキと心が痛む。

適切な例ではないが、かつて、嫁・姑問題で悩んでいる友人に対し、私は公平な目で見ているつもりで「お姑さんのそのような言動には、それなりの歴史もある。何故、彼女がそうするのか、それは彼女だけの責任なのか、社会的に女が受けてきた差別の結果ではないのか」等々言ったことがあった。彼女はそれ以来「芳夫ーサンには嫁・姑問題はわからない。Eさんなら、私の言うことを黙って聞いてくれた…」……Eさんは聞きっぱなしでも、今後に期待がもてるが、私の言葉は彼女とのコミュニケーションを断ってしまった。

悩んでいる彼女を、あるがままに受容するって、どういうことだろう。グチを聞くだけの自分が嫌だったから、結果的には自分の理論をふりかざしただけだった。

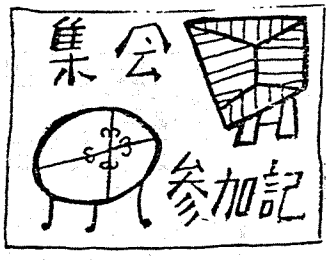
読み終わって、ほんの少し、わかりかけているような気もするが、まだ、霧の中にあって、はっきりしない。著者は10年かかって受容できるようになった、とある。私は、頭の中で、わかったつもりになったとしても、本当に、そうできるに何年、いや何10年もかかるような気がする。

どなたか、この本の読書会を一緒に始めませんか。本を購入したい方は、高橋(563-6917)まで御連絡下さい。

札幌市　母と女教師の会

中学生の問題

に参加して



小学生の時には、先生の指導にしっかり従っていた子ども達が、どうして中学生になると乱れて手に負えなくなるのだろう。

―― 生活の乱れ、わがまま、無気力、幼稚、非行の増加 ――

これは　今まさに　娘の中学でも直面している問題であった。親たちは顔を合わせると子どものやる気のなさをなげき合う。子どもがすっかり変わってしまったと落たんする人もいる。

そんななかで　中一の子ども達の喫煙、飲酒、他校とのケンカが表面化してきた。一見ちょっとしたあやまちのように見えるそれらも、今後、暴力団、暴走族、万引の介入、それに小学生にまで及ぶカンパなどに発展する可能性をはらむと警告され、親たちはすっかり驚いてしまった。

一年には、新卒の女性教師が担任をしているクラスがあるが、そのクラスは指導不能に陥り、先生は体調をこわしてしまった。その先生の泣いている姿を見て、娘は、先生にはなるまいと決めた。

これらのことから懇談会がひんぱんにもたれるようになったが、驚くような話が次から次から出てくる。「カゲツベン」の誘いのかかった子、部ぐるみで夜遊びをするところがあり、同調しないと「ミカト」される。懇談会に出席する親に「余計なことをしゃべるな、チクるな」とクギを差す子。子どもの口からワケのわからない言葉がとび出してくるものだから親も事態がよく把握できずに　とまどうばかりだ。

様々な問題が起こるにつれて規則が厳しくなり、先生の生徒に対する管理が一層厳しくなってきた。「子どもを守るために」と先生は子どもに目立つ格好をさせない、余計なものを持って来ると没収。　異様なまでに神経をとがらせている。

子ども達は　今や　一方は無気力にまた一方では、スキを見ては反抗を試みる。弱い先生には不服従。

どんな集いでも、必ず、先生の管理がどう、親の姿勢がどうという話になるのだけど、本当は、もっと大きな"力"について話し合わなければならないはず。

A・M

情報

＊脳死について考える市民講座

日時．12月5日(金) 午後6時 入場無料
場所．教育文化会館 3F
主催．札幌弁護士会 011-281-2428
講師．高取健彦(北大医学部教授)
　　大谷 実 (同志社大医学部教授)

＊第2回札幌民衆史講座

『戦後も続いたタコ部屋』

証言．私はタコだった．—真駒内米軍基地の傷あと—
講演．民衆史掘りおこし運動の今日的意義　森岡武雄
日時．12月7日(日)　12.00～15.40．交流会16.30
場所．教育文化会館 大研修室
会費．500円(小.中.高生無料)　連絡先 582-6034

＊映画上映会『草とり草紙』

—三里塚のおばあちゃんのこと.—

日時 12月14日(日) ①14.00. ②16.30
場所．ひらひら．北区北18条西5．北18条ビル
連絡先．TEL 746-2801

あとがき

永く、リブ運動に関って来て、分科会として通信を担当したことは、あったけれど有能な仲間たちのオンブにダッコだったので今回も何が何やら皆目わからず皆さんの手どり、足どりによって、やっと出来ました。
それでもワリ付けなど覚えることもあって、文字通り60の手習いを楽しみました。
まだ担当していない方、勇気を出してやってみて下さい。楽しかったというのは本当ですから。(盛生高子)